

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	2学年	教科書	国語表現(大修館書店)
科目	国語表現	クラス	αコース	副教材	国語表現基礎練習ノート(大修館書店) ライトパーフェクト(尚文出版)
		単位数	3	担当者	浅水 理香

学習目標	国語表現の授業を通して次のことができるようにする。 ・国語で適切かつ効果的に表現することができる。 ・伝え合う力を高めることができる。 ・思考力や想像力を伸ばすことができる。 ・言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る姿勢を身につけることができる。				
学習方法	・自分の意見を的確に相手に伝えられる能力を養う。 ・他者の意見を聞き、尊重する態度を身につけられるように、グループ学習を取り入れる。 ・学習した表現を理解し、自ら使えるように、書く・話す場面を設定する。 ・授業内でスピーチ発表やレポート作成を取り入れ、表現力を養う。 ・板書以外の要点を自らメモする。				
学習評価	評 価 の 観 点 当 該 科 目 の 評 価 の 趣 旨 a 知識及び技能 言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。 b 思考・判断・表現 目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。 c 主体的に学習に取り組む態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。 定期考査は行わず、授業内の活動や小テスト、提出物などで上記a,b,cの観点それぞれについて適切に配分しています。				

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	【第2部】表現を楽しむ 1 言葉で遊ぶ 7 たのしいやゲームをしよう	・さまざまな言葉遊びをとおして、言葉に興味をもち、語彙を広げて、言語感覚を豊かにする。 ・言葉を意識し、ゲームをとおして語彙を広げ、言語感覚を豊かにする。 ・辞書の言葉の定義のしかたを意識し、わかりやすく適切な定義を書く。	○		○	a 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、言葉遊びの中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 b 「書くこと」において、目的や意図に応じて適切な題材を決め、語句や表現の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。 c さまざまな言葉遊びに興味をもち、意欲的に活動に取り組もうとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト
	【第1部】表現力を培う 1 言葉と出会う 2 言葉と表記 ・整った文を書く ・相手に応じた言葉遣い ・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方 ・実践トレーニング①	・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方を意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方を理解する。	○		○	a 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、自己紹介している。 b 読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などをふまえて、自分の文章の特長や課題をとり直し直したりしている。 c 「ポイント」の読み取りや練習問題に興味をもって取り組み、分かりやすい文を書くことへの理解に努めようとしている。	
前期末	【第1部】表現力を培う 2 伝える、伝え合う ・絵や写真を見て書く ・マイニュース記事を書く	・聞くこと、話すこと、伝え合うことを見つめ直し、コミュニケーションについて新たな発見をする。 ・相手に伝えることを意識してわかりやすい文章を書く。	○		○	a 話し言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、自己紹介している。 b 「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、内容を検討している。 c 伝え合うことの楽しさを知り、積極的にコミュニケーションに取り組もうとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト
	【第1部】表現力を培う 読書のひろば ・ビブリオバトルをしよう ・リーダーズシアターを開こう	・読書に興味をもち、意欲的に読書に取り組む。 ・聞き手を意識し、本の魅力や、登場人物の心情や情景が思い浮かぶような表現のしかたを工夫する。	○		○	a 自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 b 「話すこと・聞くこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。 c お気に入りの本の紹介や登場人物の心情を表現する活動をおとて、話し言葉の特徴や役割、表現の特色を理解し、自分の思いや考えが伝わるよう、話の構成や展開を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。	
後期中間	【第1部】表現力を培う 5 メディアを駆使する ・通信文を書き分ける ・電話を使いこなす ・電子メールを活用しよう ・ネット社会との付き合い方 ・ネットを活用した情報収集 ・メディアと情報	・さまざまな通信文の形式を理解する。 ・相手に応じた適切な言葉遣いや応答のしかたを理解する。 ・メディアごとに立場や条件が異なり、情報の伝え方が異なることを理解する。	○		○	a 通信文ごとの形式の違いや、頭語と結語、時候の挨拶などを理解し、正しい表現や言葉遣いや漢字を用いている。 b 相手や自分の立場、目的を考えながら、適切な電話対応やメール文章を作成している。 「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、ネット社会との付き合い方に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 c さまざまなメディアの特徴とそれから得られる情報について興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト
	【第2部】表現を楽しむ 4 魅力的なポスターを作ろう 6 働く人にインタビュー 12 こちら悩みごと相談室	・伝えたいことが効果的に伝わるよう、レイアウトやデザインを工夫してポスターを作る ・聞きたいことを明確にし、質問のしかたや話し方を工夫しながらインタビューする。 ・相手を意識し、相手の気持ちに寄り添って、相談の回答を書く。	○		○	a 書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けしている。 b 「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、視点を明確にしておきながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c さまざまな活動に意欲的に取り組もうとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	地理歴史	学年	2	教科書	世界史探究 詳説世界史 (山川出版社)
科目	世界史探究	コース	αコース	副教材	グローバルワールド世界史図表 (第一学習社)
		単位数	2	担当者	吉田 大樹

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を学び、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の獲得を目指す。		
学習方法	(1)単元にテーマを設定し、課題探究的な学習をベースとする。副教材と小テストで日常的に知識理解を図る。 (2)単元の学習に、学習内容が可視化できる教具を活用したり、ICT機器を活用したりしながら学習する。 (3)主体的かつ対話的で深い学びを促すために、ペアワークやグループワークを随時利用して学習する。 (4)現代における社会的事象の「見方・考え方」と、歴史的な「見方・考え方」をつなげられるように学習する。 (5)日本との関連や、現代社会におけるグローバルな課題と、世界の歴史の推移との関わりを学習する。		
学習評価	評価の観点		評価の趣旨
	a	知識及び技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	b	思考力・判断力・表現力	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	c	主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期 中間	世界史へのまなざし 第1章 諸地域の歴史的 特質の形成	1 自然環境と人類の進化 2 文明の誕生 3 古代オリエント文明と その周辺 4 南アジアの古代文明 5 中国の古代文明 6 南北アメリカ文明	○	○	○	a: 古代国家と社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。古代国家と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 古代国家と社会や文化の特色から課題を見だし、その過程や結果を適切に考察したり、表現したりしている。 c: 古代国家と社会や文化の特色に関する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第2章 中央ユーラシアと東ア ジア世界	1 中央ユーラシア 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の 形成	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
前期 末	第3章 南アジア世界と東南ア ジア世界の展開	1 仏教の成立と南 アジアの統一国家 2 インド古典文化と ヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の 形成と展開	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第4章 西アジアと地中海周辺 の国家形成	1 イラン諸国家の興 亡とイラン文明 2 ギリシア人の都市 国家 3 ローマと地中海世界 4 キリスト教の成立 と発展	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第5章 イスラーム教の成立と ヨーロッパ社会の形成	1 アラブの大征服と イスラーム政権の 成立 2 ヨーロッパ世界の 形成	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)

後期 中間	第6章 イスラーム教の伝播と 西アジアの動向	1 イスラーム教の諸 地域への伝播 2 西アジアの動向	○	○	○	a: イスラーム世界やヨーロッパ中世世界の社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、それに関する諸資料を収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: イスラーム世界やヨーロッパ中世世界の社会や文化の特色から課題を見だし、その過程や結果を適切に考察したり、表現したりしている。 c: イスラーム世界やヨーロッパ中世世界の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第7章 ヨーロッパ世界の変容 と展開	1 西ヨーロッパの封 建社会とその展開 2 東ヨーロッパ世界 の展開 3 西ヨーロッパ世界 の変容 4 西ヨーロッパの中 世文化	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
後期 末	第8章 東アジア世界の展開と モンゴル帝国	1 アジア諸地域の自 立化と宋 2 モンゴルの大帝国	○	○	○	a: 近世国家と社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。近世国家と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 近世国家と社会や文化の特色から課題を見だし、その過程や結果を適切に考察したり、表現したりしている。 c: 近世国家と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第9章 大交易・大交流の時代	1 アジア交易世界の 興隆 2 ヨーロッパの海洋 進出とアメリカ大陸 の変容	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第10章 アジアの諸地域と繁栄	1 オスマン帝国と サファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接 諸地域	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期 中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
前期 末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期 中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25
後期 末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	5	25

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	公民	学年	2	教科書	公共 (東京法令出版)
科目	公共	コース	αコース	副教材	なし
		単位数	2	担当者	湊 祥之介

学習目標	①現代の諸課題を見つめることを通して、グローバル化する国際社会、多様化する身近な社会の形成者として、よりよい社会の構築や人間としての在り方や生き方についての自覚を深めることができる。 ②課題解決のための選択や判断に資する見方・考え方を養い、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての資質・能力を育成することができる。
学習方法	(1)単元の基礎となる問いを設定し、生徒自身による「問いを表現する」機会も設定する。 (2)ピアワークを展開し、主体的・対話的で深い学びにつながる言語活動を重視した授業を行う。 (3)生徒の将来像を意識して、DXに対応したICT授業をよりいっそう推進する。 (4)現代の諸課題に関するさまざまな資料を通して、社会的事象における「見方・考え方」や公民的な「見方・考え方」を働かせる。
学習評価	評価の観点 評価の趣旨 a 知識及び技能 b 思考力・判断力・表現力 c 主体的に学習に取り組む態度 定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期 中間	第1編 第1章 公共的な空間をつくる私たち	①社会のなかの私たち ②日本の文化と社会 ③青年期とは ④自己形成の課題 ⑤ライフキャリアの形成 ⑥社会の多様性 ⑦宗教と文化	○	○	○	a: 選択・判断の手掛かりとして、個人や社会全体の幸福、公正などの義務を重視する考え方を理解している。諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能が身に付いている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ベアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方	①幸福とは ②自由とは ③正義とは ④公正とは	○	○	○	b: 公共的な空間における基本原理について、個人と社会の関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ベアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第3章 公共的な空間における基本原理と日本国憲法	①人間の尊厳と平等 ②民主政治と国民主権 ③消極的自由と公共の福祉 ④積極的自由と義務 ⑤法の支配と人権保障 ⑥平和主義	○	○	○	c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自治つ下主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ベアワーク等) 3 課題プリント等の提出
前期 期末	第2編 第1章 日本の政治機構と政治参加	①法の権威と限界 ②国会の運営と権限 ③内閣と行政の民主化 ④世界の政治体制 ⑤裁判所と人権保障 ⑥私たちと裁判 ⑦地方自治のしくみ ⑧選挙のしくみと課題 ⑨政党政治 ⑩国民と政治参加	○	○	○	a: 諸資料から、必要な情報・知識を適切に収集、理解し、要旨を読解、まとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ベアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第2章 経済のしくみ	①経済活動と私たちの生活 ②市場のしくみ ③市場の失敗 ④現代の企業 ⑤国所得 ⑥景気変動と物価の動き ⑦財政の役割 ⑧財政の課題 ⑨企業のしくみと働き ⑩中央銀行と金融の自由化	○	○	○	a: 諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨を読み取り、まとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ベアワーク等) 3 課題プリント等の提出

後期 中間	第3章 変化する日本経済	①戦後復興から高度経済成長へ ②安定成長からバブル経済 ③バブル後の日本経済 ④日本の中小企業 ⑤日本の農業問題 ⑥公害の防止と環境保全 ⑦エネルギーと循環型社会	○	○	○	a: 諸資料から、より活弁な経済活動と個人の尊厳を成り立たせるために必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨の読み取りやまとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ベアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第4章 豊かな生活の実現	①私たちの生活と契約 ②消費者主権 ③労働者の権利 ④現代の雇用・労働問題 ⑤社会保障の役割 ⑥社会保障制度の課題	○	○	○	c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自治つ下主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ベアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第5章 国際政治のしくみと銅鑑	①国と主権と領土 ②人権保障の広がり ③国際連合の役割と課題 ④第二次世界大戦後の国際社会 ⑤冷戦終結後の国際社会 ⑥人権・民族・難民問題 ⑦核兵器の廃絶と国際平和 ⑧日本の安全保障の現状	○	○	○	a: 諸資料から、権利や自由が保障・実現され、社会の秩序が形成、さらに維持されていくために必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨の読み取りやまとめる技能が身に付いている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ベアワーク等) 3 課題プリント等の提出
後期 期末	第6章 国際経済のしくみと動向	①貿易と国際分業 ②外国為替のしくみと国際収支 ③戦後国際経済の枠組みと変化 ④グローバル化する経済	○	○	○	b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ベアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第7章 国際社会の現状と課題	①地域統合の進展 ②南北問題 ③新興市場国 ④地球規模の諸課題 ⑤地球環境問題 ⑥日本の役割	○	○	○	c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自治つ下主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ベアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第3編 持続可能な社会をつくるために	①民主主義を考えよう ②日本の格差問題 ③科学技術の進展 ④外国人との共生	○	○	○	a・b・c総合: 現代の諸課題から、その課題の解決に向けて事実を基に協議して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ベアワーク等) 3 課題プリント等の提出

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期 中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
前期 期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
後期 中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
後期 期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	2年	教科書	新 高校の数学Ⅱ(数研出版)
科目	数学Ⅱ	クラス	α コース	副教材	ポイントノート数学Ⅱ(数研出版)
		単位数	3	担当者	菊池 元夢・佐々木 卓磨

学習目標	① 複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法の基本的問題を解くことができる。 ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを世の中の事象に活用し数学的に考察することができる。 ③ 数学的な見方や考え方のよさを認識し、仲間と協力してよりよく問題を解決することができる。		
学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考えるグループワークやペアワークを行う。 ② 課題ノートを作成し、授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 授業終了時に、本時の授業内容の復習及び課題内容の理解度を測るための評価テストを行う。		
学習評価	評価の観点		評価の趣旨
	a	知識及び技能	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
	b	思考力・判断力・表現力	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
	c	主体的に学習に取り組む態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
	定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	1章 複素数と方程式	式の展開と因数分解	○		○	a: 式の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。因数定理を用いて高次方程式を解くことができる。分数式の演算ができ、因数分解や解の公式の意味を理解して、方程式の解を求めることができる。 b: 式の特徴や関係を理解し、考察することができる。 c: 式の演算や性質及び新しい数に関心を持ち、展開や因数分解、証明などを、具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 (1)発言 (2)取組状況 (3)評価テスト ②課題提出 (1)提出状況 (2)取組状況 ③評価テスト ④定期考査
		二項定理	○	○	○		
		分数式の計算	○		○		
		複素数	○		○		
		2次方程式の判別式		○	○		
		解と係数の関係		○	○		
		整式の割り算	○		○		
		因数定理・高次方程式		○	○		
前期末	2章 図形と方程式	等式・不等式の証明		○	○	a: 図形や式の特徴を数学的に捉えて、表現・処理することができる。図形と式の原理・法則などを体系的に理解し様々な値が求められる。 b: 直線や円の方程式等の仕組みを理解し、図形と方程式の関係を多面的に考察、表現することができる。 c: 図形や式との関連に関心を持つとともに、それらを事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③評価テスト ④定期考査
		直線上と平面上の点	○		○		
		直線の方程式	○		○		
		2直線の関係	○		○		
		円の方程式	○		○		
		円と直線		○	○		
		軌跡		○	○		
		不等式と領域		○	○		
後期中間	3章 三角関数	三角比・一般角	○		○	a: 三角関数の考えにおいて、グラフに表すなど、事象を数学的に表現・処理することができる。三角関数の性質を理解し、三角関数における定理や公式を適切に活用することができる。 b: 図形の性質や定理について論理的に考え考察することができる。 c: 三角関数の考え方や新しい角の考え方に関心を持ち、それらを身近な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③評価テスト ④定期考査
		三角関数	○		○		
		三角関数の相互関係	○		○		
		三角関数のグラフ	○	○	○		
		加法定理		○	○		
		いろいろな公式		○	○		
		弧度法		○	○		
後期末	4章 指数関数・対数関数	指数の拡張	○		○	a: 指数関数や対数関数の基本的な原理・法則を理解し、様々な値を求めることができる。 b: 指数関数や対数関数のグラフの特徴を理解し、数の大小比較等に活用することができる。 c: 指数や対数の考え方に関心を持ち、そのよさを認識し、それらを身の回りの事象に活用しようとする。指数を拡張しても指数法則が成り立つことを理解し、対数に活用することができる。	①授業態度 ②課題提出 ③評価テスト ④定期考査
		累乗根	○		○		
		指数関数のグラフ	○	○	○		
		対数とその性質	○		○		
		対数関数のグラフ	○	○	○		
		常用対数		○	○		

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	2	教科書	化学基礎(数研出版)
科目	化学基礎	クラス	α	副教材	ネオバルノート 化学基礎(第一学習社)
		単位数	2	担当者	堤 友理江

学習目標	化学基礎の学習を通して、次のことができるようになる。 ○中学校で学んだ内容をもとに、物質の構成と化学結合、変化について詳しく理解する。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ○授業内容についての演習問題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ○実験器械、器具などの基本操作ができる。 ○化学基礎に関する基礎・基本を習得する。				
学習評価	評価の趣旨				
	評価の観点	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識および技能を身に付けている。			
	a 知識及び技能	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。			
	b 思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度			
	c 主体的に学習に取り組む態度	定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。			

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 物質の構成と化学結合	純物質と混合物 物質とその成分 物質の三態と熱運動	○	○	○	a 物質の性質を理解し、適切分離方法や元素検出方法をあげることができる。それらの方法を実践することができる。 b 物質を分離する操作がどのようなものであるかや物質の違いを説明することができる。 c 身のまわりの物質の性質や日常生活の中の物質の状態変化について興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第1編 物質の構成と化学結合	原子とその構造 イオン 周期表	○	○	○	a 原子の構成粒子、電子配置、イオン、イオン化エネルギー、周期表について理解している。 b どのような原子が安定であるか、電子配置に基づいて説明できる。原子の電子配置から、その原子がどのようなイオンになりやすいかを判断できる。 c 同じ元素でも粒子の構成が異なるものがあることや原子とイオンの違いについて興味をもつ。	
前期末	第1編 物質の構成と化学結合	第3章 粒子の結合 イオン結合とイオン結晶 共有結合と分子配位結合 分子間にはたらく力 高分子化合物 共有結合の結晶 金属結合と金属結晶	○	○	○	a 組成式を書く方法を理解している。各結晶の性質の違いを理解している。さまざまな分子を分子式や電子式、構造式で表しその構造を考えることができる。 b 各結晶の性質や違いについて説明することができる。分子の形を予想して、極性分子と無極性分子に分類できる。 c 各結晶にはどのような物質があるかに興味をもつ。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査

後期中間	第2編 物質の変化	第1章 物質量と化学反応式 原子量・分子量・式量 物質量 溶液の濃度 化学反応式と物質量	○	○	○	a 原子量・分子量・式量の定義を示すことができる。実際の物質の量を物質量で表せる。濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。正しい化学反応式が表せる。 b 粒子の数・質量・気体の体積と物質量に関する計算ができる。2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 c 多数の粒子を数えることは困難なのでまとめて扱うことが便利だということに気づく。化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第2編 物質の変化	第2章 酸と塩基の反応 酸・塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩 中和滴定	○	○	○	a 酸・塩基の定義や水溶液中の H^+ の濃度をpHで表す方法を理解している。中和反応を化学反応式で表すことができる。中和滴定で使用するホールビュレット、ビュレット、メスフラスコなどの器具を正しく扱うことができる。 b 酸と塩基を見きわめられる。塩の水溶液の酸性・中性・塩基性を判断し、説明することができる。中和の量的関係を数式で表すことができる。滴定曲線におけるpH変化、中和点、使用できる指示薬について理解している。 c 酸・塩基に関する事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探求する。	
後期末	第2編 物質の変化	第3章 酸化還元反応 酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の利用	○	○	○	a 酸化還元反応の定義を理解している。酸化還元反応の様子を、色の変化をもとに判断できる。酸の違いによる金属の反応性を理解している。 b 酸化数から酸化還元反応を判断できる。酸化還元反応における酸化剤と還元剤のはたらきを説明できる。酸化還元反応の量的関係を計算により求めることができる。金属固有の性質をイオン化傾向で考えることができる。 c 酸化還元反応に関する事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探求する。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	2	教科書	現代高等保健体育(大修館書店)
科目	体育	クラス	αコース	副教材	Active Sports 2024 総合版(大修館書店)
		単位数	2	担当者	田中 諒・狐崎 亜実

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯にわたって心身の健康と保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を身に付ける。				
学習方法	・運動の合理的、計画的な実践を通して、知識、技能を高める。 ・ペアやチームでの活動を通して、仲間と協力したり交流したりする。 ・教科書や副教材などから、競技のルールや健康、安全面についての理解を深める。				
学習評価	評価の観点		評価の趣旨		
	a	知識及び技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。		
	b	思考力・判断力・表現力	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを伝える力を養う。		
	c	主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	A 体づくり運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 集団行動	○	○	○	a 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則を理解している。 b 自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。 c 体づくり運動に自主的に取り組んでいる。	観察 記録 テスト
	E 球技 ア:ゴール型	バスケットボール	○	○	○	a: 動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 b: 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 c: バスケットボールに自主的に取り組もうとしている。	観察 スキル・筆記テスト 学習カード
	E 球技 イ:ネット型	バレーボール	○	○	○	a: ボール操作や用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。 b: よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 c: バレーボールに自主的に取り組もうとしている。	
	C 陸上競技	短距離走 走り幅跳び	○	○	○	a: 体力の高め方を理解し、各種目の技術を身に付けている。 b: 課題解決の過程を踏まえ、自己の仲間と課題を見直している。 c: 自主的に協力しながら取り組んでいる。	観察 学習カード
	H 体育理論 (1)運動・スポーツの 学び方	1. 技能と体力 2. 技術と戦術	○	○	○	a 運動・スポーツにおける技能と体力の関係を理解している。 b 生涯について運動の計画を思考し判断することができる。 c スポーツの技術・戦術について考えて行動するようにしている。	観察 筆記テスト ノート
前期末	G ダンス ウ:現代的なリズム	現代的なリズムダンス、グループ学習	○	○	○	a リズムの特徴を捉え、変化やまとまりを付け、リズムに乗り全身で踊ることができる。 b 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している c ダンスに主体的に取り組んでいる。	観察 学習カード 発表会
前期中間	E 球技 ア:ゴール型	サッカー	○	○	○	a 動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。 b 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 c サッカーに自主的に取り組もうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード 筆記テスト
	E 球技 ウ:ベースボール型	ソフトボール	○	○	○	a バット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備によって攻防ができる。 b よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 c ソフトボールに自主的に取り組もうとしている。	
	H 体育理論 (2)運動・スポーツの 学び方	3. 技能の上達過程と練習 4. 効果的な動きのメカニズム	○	○	○	a 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。 b 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について思考し判断している。 c 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について主体的に取り組んでいる。	観察 筆記テスト ノート
後期末	E 球技 イ:ネット型	卓球 バドミントン	○	○	○	a シャトル・球や用具の操作と連携した動きによって空いた場所に攻防ができる。 b チームとよりよい解決に向け、思考判断することができる。 c 自主的に取り組もうとしている。	観察 学習カード 筆記テスト
	H 体育理論 (3)運動・スポーツの 学び方	5. 体カトレーニング 6. スポーツでの安全確保	○	○	○	a 体力とトレーニングの基本理論について理解している。 b 体カトレーニングの効果的な学習の仕方について思考し判断している。 c スポーツのけがや事故の予防を理解して、考えて行動している。	観察 筆記テスト ノート

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考查	考查以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	2	教科書	現代高等保健体育(大修館書店)
科目	保健	クラス	αコース	副教材	現代高等保健体育ノート(大修館書店)
		単位数	1	担当者	田中 舘 洸

学習目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を身に付ける。				
学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ○ノートや副教材等を利用し、授業内容についての理解を深め、課題や演習問題に取り組む。				
学習評価	評価の観点		評価の趣旨		
	a	知識及び技能	現代社会と健康、社会生活と健康について、生涯を通じて健康の保持増進やそれを支える環境を考え、授業で得た知識を元に健康的な生活を送るための選択や活用ができる。		
	b	思考力・判断力・表現力	健康についての自他や社会の課題を発見し、計画的な解決をに向けて思考し判断し、目的状況に応じて他者に伝えることができる。		
	c	主体的に学習に取り組む態度	現代社会、安全な社会生活について理解し、主体的に学習に取り組もうとしている。		
	定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。				

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	3. 生涯を通じる健康	1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康 3. 性意識と性行動の選択 4. 妊娠・出産と健康 5. 避妊法と人工妊娠中絶	○	○	○	a 生涯の各段階における健康や労働と健康について理解している。 b 生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明できる。 c 生涯の各段階における健康や労働と健康について理解し、主体的に学習に取り組もうとしている。	①授業態度 ②課題提出
前期末		6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康 8. 働くことと健康 9. 労働災害と健康 10. 健康的な職業生活	○	○	○	a 生涯の各段階における健康や労働と健康について理解している。 b 生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明できる。 c 生涯の各段階における健康や労働と健康について理解し、主体的に学習に取り組もうとしている。	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査

後期中間	4. 健康を支える環境づくり	1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁、土壌汚染と健康 3. 環境と健康にかかわる対策 4. ごみの処理と上下水道の整備 5. 食品の安全性 6. 食品衛生にかかわる活動	○	○	○	a 健康を支える健康づくりである環境と健康や食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解している。 b 健康を支える環境づくりに関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明できる。 c 健康を支える健康づくりである環境と健康や食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解し、主体的に取り組もうとしている。	①授業態度 ②課題提出
後期末		7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用 9. 医薬品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策 11. 健康に関する環境づくりと社会参加	○	○	○	a 健康を支える健康づくりである環境と健康や食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解している。 b 健康を支える環境づくりに関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明できる。 c 健康を支える健康づくりである環境と健康や食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解し、主体的に取り組もうとしている。	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能			
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			
前期末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能			
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			
後期末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	20	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩手高等学校

教科	芸術	学年	2学年	教科書	Mousa 2(教育芸術社)
科目	音楽Ⅱ	クラス	αコース	副教材	改訂 高校生の歌集つどい(九州高等学校音楽教育研究会) 音楽の鑑賞資料と基礎学習(教育芸術社)
		単位数	2	担当者	細田富士子

学習目標	○生涯にわたって音楽を愛好するために必要な、基本的音楽能力を身につけることができる。 ○創造的な音楽表現と鑑賞の能力を身につけることができる。 ○幅広い音楽文化に対して興味関心を持ち、それらの良さを味わいながら理解することができる。 ○グループ活動やアンサンブル活動を通して、曲の解釈や好みの違いに気づき、互いの意見を尊重しながら理解を深めることができる。
------	--

学習方法	○提示された目標を達成できるよう、授業に臨む。 ○基本的な知識・技能の学習を繰り返し行い、活用できる能力を身につける。 ○創造的な音楽表現と鑑賞の能力を身につけるために、主体的に考え、活動する。 ○我が国や郷土の伝統音楽を含む魅力的な教材から幅広い音楽文化の良さを味わうことができる。 ○単元毎に実技試験や筆記試験に臨み、知識・技能の定着を実感する。
------	--

学習評価	評価の観点		評価の建策	
	a 知識及び技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な	○	○
	b 思考力・判断力・表現力	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもっている。	○	○
	c 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○
上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。				

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
前期中間	日本歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう 日本音楽の流れ	日本歌曲に親しみ、特徴を理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使用などの技能を身に付け、表現を工夫して個性豊かに独唱する	○	○	○	a. 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に留意をもち、主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
		和楽器に親しみ、その音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け、音色や表現を工夫して個性豊かに演奏する	○	○	○	a. 創意工夫を生かした楽器表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使用などの技能を身に付け、音楽で表している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想と和楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協動的に楽器の学習活動に取り組もうとしている。	
前期末	合唱	各パートの役割を意識するとともに、全体の響きや表現上の効果に留意しながら、表現を工夫して合唱する喜びを味わう	○	○	○	a. 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果や、合唱やヴォイス・アンサンブルなどの表現形態の特徴や各パートの役割に関心をもち、主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
		身近な曲の旋律をもとに、音楽を形づくっている要素の働きを変えて、曲の持つ表情や雰囲気を変化させ、個性豊かに変奏や編曲をする	○	○	○	a. 音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わりを深めている。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて独自の表現意図をもっている。 c. 音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴に関心をもち、主体的・協動的に創作の学習活動に取り組もうとしている。	

後期中間	表現を工夫してギターを演奏しよう	ギターの音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け、音色や表現を工夫して個性豊かに演奏する	○	○	○	a. 創意工夫を生かした楽器表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使用などの技能を身に付け、音楽で表している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想とギターの音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協動的に楽器の学習活動に取り組もうとしている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	曲想を感じ取って、曲にふさわしい発声で歌おう 創作(作詞)	発声練習に適した曲や親しみやすい曲、歌いや声などの技能を身に付けながら、表現を工夫して個性豊かに歌うとともに、主体的・協動的に学習に取り組む意欲を高める	○	○	○	a. 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使用などの技能を身に付け、歌唱で表している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想と楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果や、他者との調和を意識して演奏することに関心をもち、主体的・協動的に楽器の学習活動に取り組もうとしている。	
	ポップスの特徴を理解して歌おう 著作権	日本や外国のポップスをリズムにのって歌ったり、曲に込められた思いを味わったりしながら、曲想と歌詞との関わりなどを理解し、個性豊かに歌う	○	○	○	a. 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	
後期末	ミュージカル・ナンバーを歌おう	物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して個性豊かに歌う	○	○	○	a. 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	オペラに親しみ、アリアに挑戦しよう	物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して個性豊かに歌う	○	○	○	a. 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 c. 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心をもち、主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	コンサートを企画しよう	校内コンサートを企画し、1年間の学びの集大成を披露する	○	○	○	a. 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 b. 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能、及び合唱やヴォイス・アンサンブルなどの表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。 c. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 d. 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果や、合唱やヴォイス・アンサンブルなどの表現形態の特徴や各パートの役割に関心をもち、主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考查	考查以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	芸術	学年	2学年	教科書	書Ⅱ(教育図書)
科目	書道Ⅱ	クラス	αコース	副教材	書学習の資料 (岩手県高教研書道部会)
		単位数	2	担当者	武田由起子

学習目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することができる。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けることができる。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができる。 (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができる。		
学習方法	○授業において書と向合い、作品制作に取り組む。 ○単元毎に実技試験(作品提出)に臨み、知識・技術の定着を実感する。 ※生徒の実情に合わせて全体・個別指導を組み合わせ、適切な課題を提示する。		
学習評価		評価の観点	評価の趣旨
	a	知識及び技能	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。
	b	思考力・判断力・表現力	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。
	c	主体的に学習に取り組む態度	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
	上記a,b,cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	漢字の書・篆書	「甲骨文」 「召尊」 「石鼓文」 「泰山刻石」	○	○	○	a: 篆書を構成する様々な要素について理解している。 篆書の古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 書道Ⅰの学習を踏まえ、篆書の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c: 自身の表現の意図に基づく表現、篆書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	授業態度 課題提出
	・隷書	「雲夢睡虎地秦簡」 「馬王堆帛書」 「居延漢簡」 「開通褒斜道刻石」 「石門頌」 「己瑛碑」 「曹全碑」	○	○	○	a: 隷書を構成する様々な要素について理解している。 隷書の古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 書道Ⅰの学習を踏まえ、隷書の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c: 自身の表現の意図に基づく表現、隷書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	
前期末	・草書・行書	「居延漢簡」 「李白尺牘稿」 「十七帖」 「集王聖教序」	○	○	○	a: 草書、行書の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 b: 草書、行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 c: 草書、行書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。	授業態度 課題提出
	・楷書	「樊宝子碑」 「始平公造像記」 「鄭義不碑」 「帖猛龍碑」	○	○	○	a: 楷書を構成する様々な要素について理解している。 楷書の古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 書道Ⅰの学習を踏まえ、楷書の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c: 自身の表現の意図に基づく表現、草書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	

後期中間	仮名の書・行書きの書	「関戸本古今和歌集」 「高野切古今和歌集(第一種)」	○	○	○	a: 仮名の書を構成する様々な要素について理解している。 仮名の書の古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 仮名の書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 c: 自身の表現の意図に基づく表現、仮名の書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	授業態度 課題提出
	・散らし書きの書	「升色紙」 「継色紙」 「寸松庵色紙」	○	○	○	a: 仮名の書を構成する様々な要素について理解している。 仮名の書の古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 書道Ⅰの学習を踏まえ、仮名の書の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c: 自身の表現の意図に基づく表現、仮名の書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	
		「香紙切」 「針切」	○	○	○	a: 仮名の書を構成する様々な要素について理解している。 仮名の書の古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 書道Ⅰの学習を踏まえ、仮名の書の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c: 自身の表現の意図に基づく表現、仮名の書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	
後期末	調和体の書	・仮名の書の特徴を知って感じ仮名交じりの書の作品制作をしよう	○	○	○	a: 漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素について理解している。 目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 書道Ⅰの学習を踏まえ、漢字仮名交じりの書の目的や用途、表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c: 自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	授業態度 課題提出
		・響き合う行と余白	○	○	○	a: 漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素について理解している。 目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 書道Ⅰの学習を踏まえ、目的や用途、表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c: 自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	外国語	学年	2	教科書	Power On English Communication II (東京書籍)
科目	英語 コミュニケーションⅡ	クラス	αコース	副教材	Power On English Communication II WORKBOOK (東京書籍)・クラウン チャンクで英単語Standard(三省堂)
		単位数	4	担当者	北村 ちひろ

学習目標	1 外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。 2 英語の情報や考えなどを的確に理解したり、概要を適切に伝えたりすることができる。 3 理解した学習事項を使って、内容に関連することや自分の考えについて英語で表現することができる。	
学習方法	○授業内で習得するゴールをを明確に示し、学習意欲を高める。 ○継続的な音読を行うことで英語のリズムや表現をしっかりと身につける。 ○文章を理解し、要点や概要を伝える(Reproduction)ことでコミュニケーション力を高める。 ○要約や本文に関連する英作文を書くことで、ワークブック等で文法・語法の運用力を高める。	
学習評価	評価の観点	
	評価の趣旨	
	a	知識及び技能 外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。
	b	思考力・判断力・表現力 外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを的確に伝えている。
	c	主体的に学習に取り組む態度 コミュニケーション関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	Lesson 1 Play me, I'm Yours	音読 定着→演習 自己表現	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a 助動詞、受け身、S+V+Cを用い、情報や自分の考えを伝えることができる。 b ストリートピアノと人々・社会とのかわりについて読み、情報や自分の考えを表現できる。 c ストリートピアノと人々・社会とのかわりについて、必要な情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
前期末	Lesson 2 Ethical Fashion	音読 定着→演習 自己表現	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a SVOC、知覚動詞、使役動詞を用い、情報や自分の考えを伝えることができる。 b ファストファッションの問題やエシカルファッションについて読み、情報や自分の考えを表現できる。 c ファストファッション問題やエシカルファッションについて、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
	Lesson 3 One for All, All for One	音読 定着→演習 自己表現	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a 現在完了、過去完了、仮定法if節を用い、情報や考えを伝えることができる。 b マイケル・リーチ選手について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c マイケル・リーチ選手について、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
後期中間	Lesson 4 Vending Machines	音読 定着→演習 自己表現	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a 主格・目的格の関係代名詞及び非制限用法を用い、情報や考えを伝えることができる。 b 日本と海外の自動販売機について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c 日本と海外の自動販売機について、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
後期末	Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue	音読 定着→演習 自己表現	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a 助動詞+受け身、SV分詞、if名詞節、It seems [appears]を用い、情報や考えを伝えることができる。 b プレイルノイエについて読み、情報や自分の考えを表現できる。 c プレイルノイエについて、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト
	Lesson 6 New Banknotes	音読 定着→演習 自己表現	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a It is said that, It is 形容詞 that/to 不定詞、助動詞+have+ppを用い、英語で表現できる。 b 新紙幣とキャッシュレス社会について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c 新紙幣とキャッシュレス社会について、情報や意図を把握しようとしている。	定期考査、授業テスト ペアワーク、グループワーク パフォーマンステスト

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	商業	学年	2年	教科書	ビジネス基礎(実教出版)
科目	ビジネス基礎	クラス	αコース	副教材	ビジネス基礎準備問題集(実教)
		単位数	3	担当者	石倉 節子

学習目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を養う。		
学習方法	ビジネスについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
学習評価	評価の観点		評価の趣旨
	a 知識及び技能	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。	
	b 思考力・判断力・表現力	企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	
	c 主体的に学習に取り組む態度	組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。	
	定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期 中間	第1章 商業の学習とビジネス 第2章 ビジネスとコミュニケーション 第3章 経済と流通の基礎	1. いざ、ビジネスの世界へ 2. 私たちの社会とビジネス 1. コミュニケーション 2. ビジネスマナー 1. 経済の仕組みとビジネス 2. 経済活動と流通	a		・ビジネスの概要について理解している。 ・実務に関連する技術を身に付けている。 ・経済社会における事例と関連付けて理解している。	定期考査 課題・提出物 小テスト 授業態度	
					b		・商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要、意義と課題について、経済社会の持続的な発展と関連について考えている。 ・ビジネスの場面を分析し、ビジネスにおいて他者への対応について考えている。 ・経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・ビジネスにおける信頼関係構築について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
			c				・ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。 情報を入力して活用し、評価・改善している。 ・ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。
前期 末	第4章 さまざまなビジネス	1. ビジネスの種類 2. 小売業 3. 卸売業 4. 物流業 5. 金融業 6. 情報通信業	a		・ビジネスの種類と流通や流通に関わる様々なビジネスについて、経済社会における事例と関連付けて理解している。	定期考査 課題・提出物 小テスト 授業態度	
			b		・流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。		
			c		・流通や流通に関わる様々なビジネスについて自ら学び、これらの組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。		

後期 中間	第5章 企業活動の基礎	1. ビジネスと企業 2. マーケティングの重要性 3. 資金調達 4. 財務諸表の役割 5. 企業活動と税 6. 雇用	a		・企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。	定期考査 課題・提出物 小テスト 授業態度
			b		・企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	
			c		・企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	
後期 末	第6章 ビジネスと売買取引 第7章 ビジネス計算 第8章 身近な地域のビジネス	1. 売買取引の手順 2. 代金決済 1. ビジネス計算の基礎 2. ビジネス計算の応用 1. さまざまな地域の魅力と課題 2. 地域ビジネスの動向	a		・取引について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・さまざまな地域のビジネスについて理解している。 ・ビジネス計算について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけている。	定期考査 課題・提出物 小テスト 授業態度
			b		・取引に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考え、実施及び評価・改善を行っている。	
			c		・取引について自ら学び、適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・ビジネス計算について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・身近なビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期 中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期 末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期 中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期 末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	商業	学年	2年	教科書	新簿記(実教出版)
科目	簿記	クラス	αコース	副教材	学習と検定 反復式簿記問題集全商3級
		単位数	2	担当者	石倉 節子

学習目標	・商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を養う。		
学習方法	・学習の要点を理解し、演習に取り組み基礎的基本的な知識と技術を身に付ける。 ・企業の会計処理について、座学やグループ学習による言語活動を取り入れ、理解の定着を図る。		
学習評価	評価の観点		評価の趣旨
	a	知識及び技能	・企業会計の視点から取引を記録・計算・整理の技術を学び、企業分析に対する基礎的な知識を身に付ける。
	b	思考力・判断力・表現力	・記録の技術である仕訳や帳簿整理から具体的な企業の取引を分析し、企業理解の基礎的な考え方を身に付ける。
	c	主体的に学習に取り組む態度	・経済社会の主体となる企業の活動に対し興味・関心を持ち、企業活動を理解することで経済社会に対する学びの姿勢を身に付ける。
	定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 簿記の基礎	第1章 簿記の基礎 第2章 資産・負債・純資産と貸借対照表 第3章 収益・費用と損益計算書 第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記 第6章 仕訳帳と総勘定元帳 第7章 試算表 第8章 精算表	a			・簿記の意味・役割を明らかにして、記帳の重要性について理解する。 ・資産、負債、資本の意味を明らかにし、相互関係を理解する。 ・収益、費用の意味を明らかにし、理解する。 ・仕訳の意味を明らかにし、理解する。 ・仕訳帳の形式、記入法を理解し、記帳の習熟を深める。 ・試算表・精算表の意味を理解する。	定期考査 課題・提出物 小テスト 授業態度
						・簿記の基礎を学び、記帳の重要性を理解する。	
						・個人企業の会計について理解を深めようとしており、記帳方法の習得に取り組んでいる	
前期末	第1編 簿記の基礎 第2編 取引の記帳	第9章 決算 第10章 現金・預金などの取引 第11章 商品売買の取引 第12章 掛け取引 第13章 手形取引 第14章 その他の債権・債務の取引 第15章 固定資産の取引 第16章 個人企業の資本の取引 第17章 販売費と一般管理、税金の取引	a			・決算手続き全体の流れを理解させ、その記帳の習熟を深める。 ・分配法の復習から3分法による商品売買の記帳方法を理解する。 ・分配法の復習から3分法による商品売買の記帳方法を理解する。 ・掛け取引の意味および売掛金・買掛金の意味を正確に理解する。 ・手形債権・手形債務の発生・消滅の関係を明確に理解する。 ・その他の債権債務について理解する。 ・固定資産の意味と種類について明らかにする。 ・企業の資本の記帳方法について理解する。 ・販売費及び一般管理費勘定で統括した場合の記帳方法について理解する。	定期考査 課題・提出物 小テスト 授業態度
						・各種取引の内容を正確に読み取り、適切な記帳方法で表現することができる。	
						・各種帳簿の記帳方法に精通し、丁寧な記帳を身に付けようとしている。	

後期中間	第3編 決算(その1) 第4編 会計帳簿と帳簿組織	第18章 決算整理 第19章 8桁精算表 第20章 帳簿決算 第21章 会計帳簿 第22章 伝票の利用 全商簿記実務検定演習	a			・決算整理を含む決算手続き全体の流れを、帳簿記入を通して理解する。 ・8桁精算表が作れるように習熟を深める。 ・総勘定元帳の締め切りと、繰越試算表・損益計算書・貸借対照表の作成方法を理解する。 ・分課制度と帳簿組織との関連について理解する。 ・3伝票制について理解する。	定期考査 課題・提出物 小テスト 授業態度
						・精算表の作成から決算処理までの流れを理解し、必要な帳簿の記入を正確に身に付ける。	
						・決算の基礎を理解し、経営者の立場で記帳方法を身に付ける。	
後期末	第4編 会計帳簿と帳簿組織	第23章 会計ソフトウェアの活用 第24章 特殊な手形の取引 第25章 有価証券の取引 第26章 本支店会計 全商簿記実務検定演習	a			・取引の記帳に会計ソフトウェアを活用することによる利点を理解する。 ・手形の割引の意味を明らかにし、その記帳方法を理解する。 ・有価証券の取得・売却の記帳方法を理解する。 ・本店集中計算制度の意味と支店相互間の取引の記帳方法を理解させる。	定期考査 課題・提出物 小テスト 授業態度
						・本支店取引を正確に記帳し、株式会社の取引についても正しい記帳が出来る。	
						・複雑な本支店取引を理解しようとし、発展学習としての株式会社への理解にも主体的に取り組んでいる。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和7年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	家庭	学年	2年	教科書	教育図書 フードデザイン Food Changes LIFE
科目	フードデザイン	クラス	αコース	副教材	教育図書 フードデザイン Food Changes LIFEノート
		単位数	3単位	担当者	金石知佳

学習目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動に取り組む。 食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上のため必要な資質・能力を身につける。	
学習方法	(1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。 (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、自立した食生活と充実向上をめざし、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育について主体的に考え、かつ協力して取り組む。	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を身につけ、実践できる技能を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	食生活を総合的に捉え計画・実践するための課題を見だし、思考を深め、食育の推進のために創意工夫し表現できる。
	c 主体的に学習に取り組む態度	食生活に関する諸問題に関心をもち、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする意欲と態度を身に付けている。
	定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。	

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 健康と食生活	オリエンテーション 1.食事の意義と役割 2.食を取り巻く現状	○	○	○	a 毎日の食事にどのような役割があるか理解している。 b 生活習慣病の原因や症状を調べ、話し合ったり発表したりすることができる。 c 青年期の食生活の特徴を自らの生活と比較し、食生活を改善しようとしている。	授業プリント ワークノート 課題 調理実験・実習 小テスト 期末考査 授業観察
	第2章 栄養素と食品	1.栄養素と消化・吸収 ①からだの構成 ②消化・吸収のしくみ ③栄養素の役割 2.各栄養素のはたらき 3.食品とその特徴 ①炭水化物 炭水化物性食品 ②脂質 脂質性食品 2.食品の衛生と安全 食中毒予防	○	○	○	a 食品の消化と吸収のしくみについて理解している。 b 体の構成成分と栄養素の働きから、食事の大切さに気づくことができる。 c 体の構成成分と栄養素の学習を、自らの健康と関連づけて考えようとしている。	
	地産地消プロジェクト	テーマ設定 計画	○	○	○	a 栄養素の種類と役割について、科学的に理解している。 食品の特徴、調理上の性質、調理の特徴や加工などについて理解できている。 b からだの中で、それぞれの栄養素がどのような働きをしているのかについてまとめたり、発表したりすることができる。	
						a 食中毒の特徴を知り、リスクを減らす技術を身につけている。 b 日常生活で食品の表示をチェックし、食中毒予防のために活用できる。 c 食中毒に注意しなければならない場面を想定し、予防に取り組もうとしている。	
前期末	第4章 調理	1調理の理由 2調理操作 3調理の基礎	○	○	○	a 調理過程ごとに調理目的があることを理解している。 b 食べる人に配慮した調理の方法について判断することができる。 c 実際にさまざまな調理操作を試してみる意欲がある。	授業プリント ワークノート 課題 調理実験・実習 小テスト 授業観察
	第2章 栄養素と食品	③たんぱく質 たんぱく質性食品 ④ビタミン ビタミンを含む食品	○	○	○	a 栄養素の種類と役割について、科学的に理解している。 食品の特徴、調理上の性質、調理の特徴や加工などについて理解できている。 b からだの中で、それぞれの栄養素がどのような働きをしているのかについてまとめたり、発表したりすることができる。	
	地産地消プロジェクト	まとめ 発表	○	○	○	a 伝わりやすい方法を理解し発表スライドをまとめる技術を身につけている。 b 設定した課題に取り組んだ内容をまとめたり、発表したりすることができる。 c 他者の発表にも積極的な関心を持っている。	

後期中間	地産地消プロジェクト	まとめ 発表	○	○	○	a 伝わりやすい方法を理解し発表スライドをまとめる技術を身につけている。 b 設定した課題に取り組んだ内容をまとめたり、発表したりすることができる。 c 他者の発表にも積極的な関心を持っている。	授業プリント ワークノート 課題 調理実験・実習 小テスト 期末考査 授業観察
	第2章 栄養素と食品	⑤無機質(ミネラル) 無機質を含む食品 ⑥水、香辛料他	○	○	○	a 栄養素の種類と役割について、科学的に理解している。 b からだの中で、それぞれの栄養素がどのような働きをしているのかについてまとめたり、発表したりすることができる。 c 無機質(ミネラル)、水などの役割、種類について関心を持つようとしている。	
	栄養・食品必要量	①日本人の食事摂取基準 ②食品群別摂取量のめやす ③ライフステージと栄養	○	○	○	a 各ライフステージの栄養について理解している。 b ライフステージによってなぜ必要とされる食事が異なるのかを考え、意見を伝えることができる。 c それぞれのライフステージに応じた食事計画に関心を持っている。	
	実践 献立と調理	①献立の構成 ②献立作成の要素 ③献立を立てる	○	○	○	a 献立の構成を理解し、レシピを自分なりに工夫することができる。 b 食事テーマに応じた献立を考え、実行することができる。 c 目的に合った調理方法について関心、意欲を持っている	
後期末	地産地消プロジェクト	テーマ別献立作成	○	○	○	a レシピを自分なりに工夫することができる。 b 食事テーマを設定し、それに応じた献立を考え、実行することができる。 c 季節の献立は季節感を出す調理方法について関心、意欲を持っている	授業プリント ワークノート 課題 調理実験・実習 小テスト 期末考査 授業観察
						a 行事食・郷土料理の献立について興味を持ち、その内容を理解している。 b 家庭の行事食・郷土料理の献立について考え、意見を伝えることができる。 c 献立に興味を持ち、アレンジして生活に取り入れようとする意欲がある。	
	第6章 食育と食育推進活動	2.食文化を見つめる 行事食・郷土料理	○	○	○	a 行事食・郷土料理の献立について興味を持ち、その内容を理解している。 b 家庭の行事食・郷土料理の献立について考え、意見を伝えることができる。 c 献立に興味を持ち、アレンジして生活に取り入れようとする意欲がある。	
	第5章 各国料理とコーディネート	テーブルコーディネート 小物製作	○	○	○	a 季節感を出す食材や食卓のコーディネート、小物があることを理解している。 b 食事テーマを設定し、それに応じた小物の配色を考え、製作することができる。 c 丁寧に最後まで製作しようとしている。	
後期末	実践 献立と調理	テーマ別献立作成	○	○	○	a レシピを自分なりに工夫することができる。 b 食事テーマを設定し、それに応じた献立を考え、実行することができる。 c 季節の献立は季節感を出す調理方法について関心、意欲を持っている	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
	知識・技能	30	0	30
前期末	思考・判断・表現	40	0	40
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
後期中間	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
後期末	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	20	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	10	20
	知識・技能	30	15	15